

妄想劇場 聖地へ・・・。

1人で寂しくGWの夜を過ごしていた私。

私の携帯が「Be Happy 恋のやじろべえ」が鳴っていた。

そう、梨華ちゃんからの電話だ。

私：おっ、梨華ちゃんからだ。もしもし。

(^▽^): もしもし、梨華だけどRanくん？

私：そうだよ。梨華ちゃん、一人ぼっちで寂しいよ。

(^▽^): ゴメンね。突然なんだけど5月4日って空いてる？

私：空いてるけどどうかしたの？

(^▽^): 実は5月4日に1日だけOFFをもらったの。そこでRanくん、あたしの故郷・横須賀に来ない？高速1,000円じゃん。

私：マジで？行くよ。ただ、1,000円で行けるのは厚木までなんだ。そこから一般道を走っていくつもりだけど、何処で待ち合わせる？

(^▽^): 江ノ島の近くはどう？

私：江ノ島か……。いいよ、小田急の片瀬江ノ島の近くでね。

というわけで、5月4日の朝、厚木から茅ヶ崎に出て湘南の海岸を江ノ島・逗子方面へ愛車を走らせていた。

茅ヶ崎から逗子に出る海岸線の国道沿いに梨華ちゃんが佇んでいた。

(^▽^): Ranくん早く来ないかなあ。

それから数分後、私の愛車は梨華ちゃんのいる近くに差し掛かった。

私：あ、いたいた。

私は路肩に車を寄せた。

それを見た梨華ちゃんは私のところに駆け寄った。

(^▽^): Ranくん、よく来たね。

私：東名の渋滞を掻い潜ってきましたよ。梨華ちゃんを見て凄くホッとしたよ。

(^▽^): あたし、東名の渋滞が凄く心配だったんだけど来てくれて良かった。

私は梨華ちゃんを乗せて梨華ちゃんの故郷・横須賀へ向かった。

車は横須賀市に入った。

少し走ると梨華ちゃんの卒業した小学校が見えてきた。

(^▽^): あ、あたしが卒業した小学校だ。

私：遂に車で梨華ちゃんの故郷に乗り入れちゃいましたよ。

梨華ちゃんの安心しきった表情に癒されながら横須賀市の中心部へ。

私：良い所で生まれ育ったんだね。

(^▽^): ありがと。

私：梨華ちゃんとうとう梨華ちゃんの故郷を歩けるなんて嬉しいよ。ゴールデンウィー

クの大半を寂しい想いをしないで済んだのだから。

(^ ▽ ^): 良かった。あたしも **Ran** くんを呼べて嬉しかったもん。

私と梨華ちゃんは横須賀の街を何処にでもいる新婚の夫婦のように歩き回った。

梨華ちゃんと共に笑い、共に楽しみ、共に喜ぶ凄く幸せなひと時だった。

そして夕方、梨華ちゃんと梨華ちゃんの故郷・横須賀を後にした。

(^ ▽ ^): **Ran** くん、今日は来てくれてありがとう。あたしを江ノ島まで送って行ってね。

私：勿論です。厚木まで一般道だからね。

逗子を通り、湘南の海岸沿いの国道を江ノ島に向かって走行中、渋滞に捕まった。

(^ ▽ ^): 渋滞しちゃってるね…。

私：渋滞しているけど、大丈夫だよ。1分でも長く梨華ちゃんと一緒にいられるのだから。

(^ ▽ ^): そうよね。

渋滞の中を進み、江ノ島に着いた。すると梨華ちゃんがこんな事を言い出した。

(^ ▽ ^): **Ran** くん、一緒に砂浜を歩いてみようよ。

私：そうだね。

私と梨華ちゃんは江ノ島の砂浜を歩いた。

(^ ▽ ^): ん～、潮風が気持ち良い～。

私：江ノ島は中学校の修学旅行以来だからなあ。

(^ ▽ ^): 風景変わっちゃってるでしょ？

私：変わっちゃってるね。

(^ ▽ ^): こうして湘南の砂浜を **Ran** ちゃんと歩けるなんて凄くうれしいな。

私：湘南の砂浜を歩けるのは凄く幸せだし素直に嬉しいさ。

幸せな時間はあっという間に過ぎてしまい、私が名古屋へ帰らなければならない時間に…。

私：梨華ちゃん、今日はありがとう。梨華ちゃんの故郷に來られて凄く嬉しかったよ。

(^ ▽ ^): あたしもよ。でも、**Ran** くんはこのあと東名高速で長い距離を走らなければならないのよね。気をつけてね。名古屋に着いたら連絡してね。

私：分かったよ。

(^ ▽ ^): **Ran** くん。

私：梨華ちゃん。

2人は長めのキスをした。

私は名古屋を目指して海岸沿いの国道を茅ヶ崎方面へ車を動かし始めた。

梨華ちゃんは手を振って見送ってくれた。

私は茅ヶ崎⇒平塚⇒厚木と車を走らせ、厚木から東名高速をひた走る。

しかし、途中で渋滞を掻い潜り途中で仮眠の後、翌日の午前中に途中で伊勢湾岸道に入り、無事に名古屋に到着。

家に帰るとすぐに携帯電話を取り出し、梨華ちゃんにメールを送った。

“渋滞には巻き込まれたけど、無事に名古屋に着いたよ”という感じでメールを送信。すると、梨華ちゃんから“長距離運転お疲れ様。あたしが帰ってくるまで待っててね。”とメールが帰ってきました。

私と梨華ちゃんの夫婦物語はGWのLove Storyとしてまだまだ続く。